

## 特集「情報通信社会の新潮流をつくるモバイル通信と高度交通システム」の編集にあたって

安本 慶一<sup>1,a)</sup>

スマートフォンなど新しいユーザデバイスの急速な普及と次世代無線ブロードバンド通信技術の発展により、モバイル通信と高度交通システム (ITS) の研究開発は新しい展開を迎えようとしている。移動通信システムのよりいっそうのブロードバンド化に加え、アプリケーション開発の自由度の高いスマートフォンの普及の本格化等により、位置情報やコンテキスト情報などを活用した新たなサービスの登場が期待されている。今後は、大きく発展を続けるモバイル通信や ITS 技術を高度に駆使することで、様々な社会的要請に応える形での情報通信社会の発展を促す新たな潮流を生み出すことが望まれている。

モバイル通信や高度交通システムに関するテーマでは、情報処理学会のモバイルコンピューティングとユビキタス通信 (MBL) 研究会や高度交通システム (ITS) 研究会が中心となり、毎年 70 件以上の優れた論文が研究会で発表されている。また、1997 年から開催され、発表件数が毎年 200 を超える DICOMO シンポジウムでも、関連する論文が数多く発表されており、これらの研究分野の重要性・注目度が認識できる。これらの分野は、相互に深く関係しており、個別の議論と全体を俯瞰した議論の両方が必要であると考えられ、まさに優れた研究成果を幅広く募集し、一括して掲載することは、研究の推進と発展に寄与することになり、大変意義のあることと考える。

本特集号は、上記の趣旨のもと、MBL 研究会と ITS 研究会の合同で企画したものである。2011 年 12 月に論文募集を行い、2012 年 4 月 7 日投稿締切り、4 月 17 日に第 1 回編集委員会、6 月 18 日に第 2 回編集委員会、9 月 25 日に第 3 回編集委員会というスケジュールであった。今回の投稿件数は、テクニカルノート 1 件を含めて 27 件であり、最終的に 10 件の論文を採録した。結果、最終的な採録率は 37% と例年より若干低くなった。

しかしながら、採録された 10 件の論文は、主動線や通行量の推定など交通予測に関するものが 2 件、高精度地図作成や屋内位置推定など位置推定に関するものが 2 件、車

いすや電気自動車を対象とした経路探索に関するものが 2 件、車車間通信の応用と性能解析に関するものが 2 件、携帯端末のセキュリティ、通信感度調整に関するものがそれぞれ 1 件と、多岐にわたり、モバイル通信と ITS に関する主要な研究テーマをカバーしている。特に、位置情報の高精度化や高度なコンテキストの推定・活用、電気自動車の充電状況を考慮した経路案内など、最新のトピックを扱う論文が多く採録され、本特集号の趣旨である、「新潮流をつくるモバイル通信と ITS」に相応しい内容になったと考えている。

最後に、限られた時間の中で、多様かつ多数の査読を行い、出版まで至ることができたのは、編集委員や査読者、学会関係者の皆様の多大なご協力によるものであり、編集委員長として厚く御礼申し上げます。

「情報通信社会の新潮流をつくるモバイル通信と高度交通システム」特集号編集委員会

- 編集長  
安本慶一 (奈良先端科学技術大学院大学)
- 幹事  
窪田 歩 (KDDI 研究所)
- 編集委員  
石原 進 (静岡大学)、清原良三 (神奈川工科大)、岩井孝法 (日本電気)、梅津高朗 (大阪大学)、小口正人 (お茶の水女子大学)、小野里好邦 (群馬大学)、小花貞夫 (電気通信大学)、猿渡俊介 (静岡大学)、重野 寛 (慶應義塾大学)、添田純一郎 (パナソニック)、田坂和之 (KDDI 研究所)、竹下 敦 (ドコモユーロラボ)、野口 拓 (立命館大学)、屋代智之 (千葉工業大学)

<sup>1</sup> 奈良先端科学技術大学院大学  
Nara Institute of Science and Technology, Ikoma, Nara 630-0101, Japan

a) yasumoto@is.naist.jp